

全国古民家再生協会岩手第一支部 5 月例会 議事録

記録日：2025 年 5 月 9 日

記録者：菊池 一彦

団体名	一般社団法人全国古民家再生協会岩手第一支部
開催日時	2025 年 5 月 9 日（金）17：00～18：45
開催場所	岩手県民情報交流センター（アイーナ）808 会議室
出席者	菊池一彦、木川田常男、及川晃、藤原正、千葉正樹、松川章、オブザーバー（鎌田、久保田、高橋）、ゲスト：大坊幸吉（空き家アドバイザー協議会田子支部）
議事	1.開会宣言 会員 木川田常男 2.宣言文唱和 会員 木川田常男 3.出席者確認 支部長 菊池一彦 10 名出席（干泥会員は都合により欠席） 4.支部長挨拶 支部長 菊池一彦 本日は青森県で空き家アドバイザー協議会田子支部を立ち上げた大坊支部長に来ていただき、町との連携、活動状況など話していただく。その話を聞くために花巻市からオブザーバーが参加している。一関市では千葉会員が空き家アドバイザー協議会を立ち上げる予定。 なお、例会の出欠報告はギリギリでなく早めに知らせてほしい。現場や打ち合わせで事務所にいない場合もあるので、確認のメールが届いたら時間をおかずに連絡してほしい。 （ゲスト参加の大坊氏からの説明を優先し、全国の報告事項、支部報告事項は各自確認とした） 5. 支部協議・審議事項 住育学校について ○会場となる民俗村の職員は「桜まつり」で忙しく、なかなか打ち合わせができない状況。7 月半ば開催を予定しているので 6 月半ばには案内を出したい。（担当藤原） ○チラシ印刷の手配があるので、職員との打ち合わせを急ぐように支部長から指示。 6 確認事項 空き家アドバイザー協議会田子支部の活動について（大坊事務局長） 【経緯】 ○青森県田子町は人口 4,000 人。ニンニクが名産。 ○令和 4 年 10 月に「空き家アドバイザー」と「サステイナブルなまちづくりプランナー」の更新講習を受講した際、井上氏（全国古民家再生協会理事長）から「田子町で仕事をつくれ」と助言をもらった。また、アドバイザー協議会の活動には国庫補助金が 1/2～2/3 つくと聞き、戻ってから田子町長に会い、経緯を話した。 ○町長も興味をもった様子で、過疎債を使えば持ち出しは 15%にとどまるという。 ○空き家アドバイザー協議会の設立には条件があり、アステックジャパン(株)の加盟店にな

	ること（入会金 60 万円）と会員が 5 名必要だった。そこで、建設関係 19 社の協力店から水道、足場、クロス内装の住宅建築業者 4 社に声をかけた。各社の入会金などは自社で立て替え、講習を受講してもらって資格を取ってもらい、令和 5 年 5 月に支部を設置。 ○翌月に田子町と空き家アドバイザー協議会田子支部、青森県古民家再生協会との 3 者で連携協定を締結。毎月の例会には役場から住民課、税務課など 3 名の職員も出席している。 【田子町役場との関係】 ○役場職員は仕事が増えると不安に思うようだが、「このまま何もしなければ田子町は消滅都市になる」と督励している。役場の人をやる気にさせなければならない。現在、町職員が参加することで行政関係の情報も共有できる。 ○空き家無料相談会を隔月（会場：公民館）で開催し、住教育セミナーも 1 回開催した。それでも協議会の活動が一般には知られていないので令和 6 年 5 月に自治会連合会総会で各自治会長に資料配布をお願いした。 ○令和 6 年 5 月に町長に 1 年間の活動を報告し、8 月には井上氏に来町してもらい町幹部に二地域居住支援と空き家活用に関する勉強会を行った。 ○令和 6 年 9 月、町から空き家等管理活用支援法人の指定を受けた。2 地域居住支援法人の指定も視野に入れており、担当者の話では条件の活動実績は空き家等管理活用支援法人としての活動実績があれば足りると聞いている。 ○この春、町の固定資産税納付通知書に空き家アドバイザー協議会のチラシも同封してもらった。 【活動状況】 ○住教育セミナーは、令和 6 年 10 月に田子町、令和 7 年 3 月に津軽市で開催した。指定法人になったことで町民から空き家情報を寄せられるようになり、解体に結び付いたのが 2 件計 700 万円以上の仕事となった。 ○相談者の中には離婚して財産は誰が引き継ぐのかわからない人もいた。心配でもなかなか他人に相談できないものだ。相談窓口ができ、役場の仕事も軽減してメリットしかない。 ○ニンニクの縁があり、東京で弁護士をしていたゲーリー氏（米国出身）が田子町に移住し、空き家を複数件購入し、改修して海外客向けのゲストハウスにしたいという構想を持っている。不動産取引の商慣習が日米で異なるので東京の弁護士に仲介してもらい、8 月には売買契約を締結する見込み。内装工事になるのでここでも仕事生まれる。 【運営方法】 ○指定法人は補助金で運営するので年度末には残金をゼロにしなければならない。会員が受託した事業から 1.5%を協議会に納入してもらい運営費に充てている。年会費は各社で支払い、本部からの交付もあるが活動費は年間 70 万円。（指定法人用と協議会用と通帳が 2 つある） ○会員はいろいろな考えを持つが、共通目標として「自分たちが子、孫に町を残す」という理念が必要。最終的に仕事につながることもあるが、最初から利益をあてにして参加されると活動できない。
--	--

	【質疑】 Q住教育や相談会などの広報はどうしているか。 →町のケーブルテレビに流してもらっている。(広告料は無料) Q花巻市では「空き家対策計画」が来年改定される。行政計画に書き込まれると市役所もやらざるを得なくなる。田子町ではどうか。 →連携協定を町の10年間の総合計画に加えてもらう。計画策定には協議会も参画しており、3回出席した。空き家バンクを受託しているが、実績をつくり、その後に予算をつけてもらう。アクセルを踏み続け、活動を停滞させないことだ。 Q行政を動かすためのキーマンは誰だったか。 →副町長が縁者だったりするが、まず担当課の係長から説得して内部で協議をしてもらった。段階を踏まないと役所では協力を得られない。 Q会員の現状はどうか。 →5名のまま。司法書士に参加してもらいたいと考えている。 Q活動の周知はどうしたか。 →メディアを使うことだ。1年間の活動を報告する会を開き井上氏に来てもらった。全町議員に案内したが、「空き家は自分に関係ない」という議員もいる。このままでは10年後に消滅都市になるという危機感がない。活動を通じてそれをさらに5年延ばす。そういう気持ちで続けている。 Q他団体も連携協定を結んでいるか。 →建築士会、宅建協会も協定がある。しかし、締結しただけで機能していない。行政から依頼があってから仕事を誰かに回すだけ。宅建協会では空き家は低額で手数料も安いので扱いたくないのが実情。 Q一関市の設立予定はいつか。 →6月4日に河野氏が来ることになっている。河野氏が多忙でその日しか空いていない。会員は2名。 6.閉会宣言 大坊氏を囲んで慰労会を開催するので、詳しい話はそこで聞いてもらいたい。 18:45 終了
--	--